

令和6年2月9日

島本町立第四小学校
校長 川口 直樹 様

島本町立第四小学校学校協議会
会 長 叶 修 二

令和6年度の学校教育活動への提言

令和5年度の学校協議会を踏まえ、下記のとおり取りまとめましたのでお取り計らいを願います。

記

第四小学校学校協議会委員として子どもたちの「学びと育ち」に関わり、学校の教育活動について提言をいたします。

四小学校協議会では、学校運営の状況や課題について学校から報告を受け、議論を続けてきました。学校を取り巻く環境は、日々改善されつつあると実感しています。コロナ禍後の取組として、多くの体験活動や学校行事が実施され、子どもたちの成長発達にとって有意義なものとなっています。現在は町内でもインフルエンザ等の感染症により学級閉鎖等している学校もある中、先生方にはよく頑張っていると思います。熱心な先生方に恵まれた学校に通える環境があることだけでありがたいことだと感じています。保護者や地域からも評価し、応援をする声が上がっています。

この先、特に次年度の教育活動においては、未だ改善されていないこれまでの慣例を見直し、取捨選択する機会であると捉え、学校生活のさらなる充実を図っていただきたいと願います。同時に、教職員の働き方改革を推進するためにも、教職員の負荷を減らす取組もマネジメントしていただきたいと思えます。教職員の負担を減らすことは、結果として授業に力を注ぐことになり、子どもたちと向き合う時間の確保にもつながると思えます。

また、教職員は子どもたちに寄り添い、子どもたちの意見を尊重し、子どもたちが生き生きと楽しそうに過ごせる環境をめざし、褒めるときには褒める、叱る時には叱るといったメリハリのある教育をしていただき、双方向のコミュニケーションのもと、お互いの関係を築いていってほしいと思えます。

四小の教職員のみなさんが1年間取り組んだ中でよかったと思える点、疑問に思った点、今後改善の方策を探っていただきたい点などを以下にまとめました。

1. 子どもたちの学力の向上と望ましい人間関係の構築を

学校では学力向上に教職員一丸となって取り組んでいること、友達との繋がりを大切にしていること、多様性を認め合い自ら行動する児童を育てようとしていること、教職員が同じ方向を向いて風通しの良い職員集団をつくろうとしていること、保護者や地域と話し合いを大切にし、拓かれた学校づくりを行おうとしていることなど、様々な働きかけのもとチーム四小の組織が築かれていっているものと認識をしています。子どもの学力向上や基礎基本の定着は当然のことながら、毎年課題をもとに、その課題解決のための方策を全教職員で取り組まれているものと認識しています。今の現状にあった取組、研究を

進められ、児童の学力向上に繋げていただきたいと思います。

また、保護者・地域の願いは学力を身につけるだけではなく、自分が関係する人たちと望ましい人間関係を作り上げていくことだと思います。様々な個性を持った子どもたちがいる中、一人ひとりが認められ、自己肯定感が高められる学校であってほしいと願っています。

さらに、課題のある児童の学力向上を中心に、授業における指導方法の工夫改善に努めることを継続していきましょう。特に、タブレット等 ICT を活用した効率的でわかりやすく、深まりのある授業づくりをめざして、学校として研修の充実を継続してください。

2. いじめ防止、早期発見、丁寧な指導のさらなる発展を

いじめはどこにでも起こりうることであり、その都度、子どものケアを行いながら、「いじめ」をした子どもたちにはその行為を繰り返さない指導を継続するということが大切であると考えます。学校としてもいじめ防止や早期発見の取組をもっと積極的に発信し、保護者の不安を解消し、子どもたち自身も自分の行動を振り返ることができるように指導を続けていく努力を求めたいと思います。

それぞれの学級で勉強をしたいと思っている子どもが、安心して過ごせるように、一人ひとりの居場所となるように丁寧な指導をお願いします。教員と子どもとの関係性がうまくいかずに、授業が中断したり、勉強が進まなかったりすることがないように、組織として他の教員のバックアップのもと、1年間一緒に過ごす仲間との時間がより良い時間となるような取組や声かけがあれば改善できるのではと思います。

児童が、「学校に行きたい」「学校（クラス）は楽しい」と思えるような仲間づくりとともに、豊かな人間性が育まれるように、「道徳教育」「人権教育」等を中心とした教育の充実をお願いします。また、全教職員が支援教育に対する理解を深めることができるよう、充実した研修の実施を継続してください。

3. 体力の向上について

他の教科と同様に、「体育の授業づくり」に向けて授業研究も大切にしてほしいです。「体育は遊びの延長・息抜きではなく、教科学習である。」という認識を持って指導をお願いします。

特に、運動が苦手な児童や体を動かすことが嫌いな児童が、少しでも運動することが楽しいと思えるような体育の授業となるように、運動する時間の確保とともに、教職員が実技研修会等を通して技術や指導方法を学び、さらなる工夫改善を行ってください。これから先、生涯を通じて、運動する楽しさを実感できるような系統立てた取組となるよう、体育の授業についても研究を進めてもらいたいと思っています。

4. ペーパーレス化への取り組みについて

昨年度からペーパーレス化を進め、懇談予定や学校教育アンケートなど Microsoft forms を活用し QR コードで読み込むお手紙が配付されたり、メール配信によるアンケート集約や参加集約をしたり、大幅に方法が変更されました。また、出欠の連絡なども留守番電話対応時間以外でも学校に伝えることができ、保護者にとっても教職員にとってもメリットが大きかったのではないかと評価しています。教職員の業務負担を減らすためにも、積極的な活用をお願いしたいと思います。何より事務作業に費やしていた時間を、子どもたちとの関わりに使えるようにと願っています。

また、PTA運営においても会議や配布資料、お便りや連絡方法が改善され、誰にでもできる形へと業務削減が進められています。子どもたちのための最大の応援団として、身近な大人が関わることの大切さを発信しながら、活動のあり方を模索してきたことは大きな成果であると評価しています。

5. 挨拶や子どもたちの見守りについて

コロナ禍後となり、マスクを外している子どもたちも増えつつあり、表情がよく見え、会話も弾みます。これまでのコロナ禍では、沈黙の登下校は長く苦痛な時間だったと振り返ります。子どもたちは制限が多い中、それなりに順応した生活を過ごし、子どもたちの逞しさに心が熱くなります。これからも、挨拶の大切さ、心地よさを知り、人と人とのコミュニケーションを深めていただけたらと願います。また、学校は地域の交流拠点でもあるので、挨拶は子どもたちだけでなく、保護者や地域を繋ぐ役割を担っています。特に、四小校区の安全ボランティアは、組織的に危険個所を見守り、子どもたちへ温かい言葉をかけていただいております。学校と大変密に情報交換されていて良好な関係にあり、地域の方々に見守られているということを実感しています。

6. その他

世間で騒がれているように、「教員の働き方改革」は大きな課題だと思います。ただ、長い時間勤務することは良いことだとは思いますが、だからといって教員として最も大切な「授業研究（教材研究）」は、おろそかにしないでほしいと思います。若い先生方、経験年数の浅い先生方が多い中、どのようにその時間を捻出するかを個人だけで考えるのではなく、学校として引き続き「よりよい方法・システム」を検討して行ってください。

結びになりますが、常に子どもたちのことを考えながら教職員が取り組みを進めてきたことで、様々な体験ができたことに感謝申し上げます。

今後も、第四小学校の発展にご尽力いただきますようお願いいたします。